



2月24日～3月6日のヨルダン・イスラエルツアーから、先週、無事ハンブルクに戻りました。旅行3日目に私がペトラで風邪をひいた以外は、参加者全員、けがや病気から守られました。イエス様にお出会いし、主の愛の深みに漕ぎ出す旅となることを祈りつつ臨んだ旅でしたが、果たしてその通り、主は、訪問する先々や、参加者の主にある交わりを通して、私たちにご自身を現わしてくださいました。主のご臨在と愛に触れさせていただいた素晴らしい旅でした。皆様のお祈りの支えに、心から感謝いたします。

●ヨルダン

今回の旅は、ヨルダンから始まりました。ヨルダンは、申命記1:6～8に書かれているバシャン、ギレアデ、アモン、モアブ、エドムの地です。私たちがそれぞれ日本とドイツから到着した首都アンマン（写真左）は、もともとアモン人の小さな村でした。現在では、イスラエル以外の中近東の国々の中で、経済・文化の中心地となっています。



私たちは3日間にわたって、イエス様がヨハネから洗礼を受けられたベタバ（ヨルダン川の東側にあった村。聖書ではベタニヤ）、世界遺産のペトラ、ネボ山、世界最古の中東地図が発見されたマダバの「聖ジョージ教会」などを訪問しました。



ネボ山 その中で、最も感動的だったのは、モーセ最後の地であったネボ山から乳と蜜の流れる地を見渡したときです。その日は雲ひとつない快晴で、左には死海、右にはエリコ、そして中央のはるかかなたを目をこらして見ると、何とエルサレムの一番高い3つの塔を確認することができました。

反逆する民に怒りをもやし、岩を打ってしまったモーセが、神から「あのとき、わたしに対して不信の罪を犯し、わたしの神聖さをイスラエル人の中に現わさなかったから、あなたはあそこへ渡ってゆくことはできない」、ということばを聞き、どのような思いを持ってこの山上から約束の地をながめたのかを思いめぐらしました。

**「私に近づく者によって、わたしは自分の聖を現わし、すべての民の前でわたしは自分の栄光を現わす」
(レビ記 10:3)**

神が直接語られ、神とイスラエルの仲介者として立て、地上のだれにもまさって謙遜であったモーセが、たった一度、神に栄光を帰さなかったことによるその罪の結果を厳粛に受け止め、次の世代の者たちが約束の地に入ることを喜びつつ、天の故郷を待ち焦がれながら、平安に包まれてその地で息絶えていったに違いないと、あたかもモーセになったような思いで、かの地を眺めました。

ふと気がつくと、私は、もうモーセではなく、彼の後ろで呻く民のひとりの女になっていました。約束の地には、あのときモーセと共にいた者の中では、ヨシュアとカレブのたった二人しか入ることができなかったのです。けれども、呻き続け、反逆を重ねてきた自分が、今は尊い小羊の血潮の注ぎを受けて、約束の地に入ることが許される身とされたことを思い、感謝に堪えませんでした。

●イスラエル

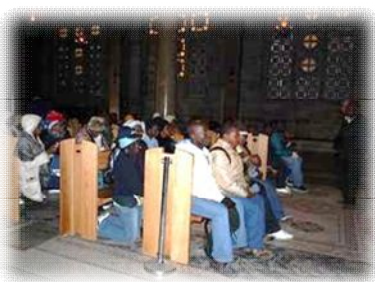
旅行4日目、私たちは南の国境からイスラエルに入り、まず死海のほとりのエン・ボケクに宿泊しました。5日目、マサダ、クムランを訪問し、いよいよエルサレム入場。この日は激しい雨の日でした。数日前、ネボ山から眺めたエルサレム、神の都に遂に入り、千年王国では、王なるイエス様とともにここで暮らすことができるのだと思ったら、ホテルの窓に当たる雨を見ながら、涙があふれて仕方ありませんでした。この冬、雨が少なかったイスラエルでしたが、この2日間の雨で、ガリラヤ湖の水位が30cm上がったことを聞き、恵みの雨に感謝を捧げました。



翌朝、カーテンを開けると、外は霧でまっ白でした。神殿が完成したとき、神の栄光がたちこめて何も見えなくなったように、主の栄光がこの町を包んでくださったような気がしました。

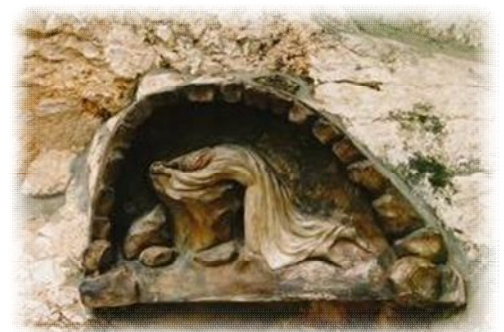
ゲッセマネの園(万国民教会)

前回、万国民教会を訪問したときは、日曜の礼拝時でしたので、教会内にあるゲッセマネの岩の前で祈ることができなかったのですが、今回は、ナイジェリア人クリスチャンの心揺さぶられる賛美に唱和した後、岩に手を置いてしばらく祈ることが許されました。



「目を覚まして祈っていなさい」と言われたのに、眠りこけてしまった弟子たちの弱さが自分と重なりました。彼らの肉の弱さを知りながら、祈りの間、何度も弟子たちのところへ戻っては同じことばをかけられ、血のような汗を流すほどの壮絶な祈りの戦いを続けた、主の苦悩と孤独が胸に迫りました。過越しの祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき時が来たことを知らされたイエスが、その愛をあまねく伝え、友と呼んだ弟子たちの支えをどれほど求めておられたことでしょう。

救われてなおも、あのときの弟子たちのように、時に眠りこけてしまう自分の弱さへの悔恨と、すべてに耐えて、こんな私の



罪を負ってくださった主の愛に触れ、祈りながら、また涙があふれてきました。まわりの人々も、皆、涙を流しながら祈っていました。



鶏鳴教会

イエスが捕えられ、連れて行かれた大祭司カヤパの邸宅跡に、ペテロがここで3度イエス様を知らないと言った時に鶏が鳴いたことから、ここに鶏鳴教会が建てられました。

教会地下のイエスが一晚捕えられた地下牢で、その時のイエスの嘆きの祈りと言われている詩篇 88 編を朗読させていただきました。

1 主、私の救いの神。私は昼は、叫び、夜は、あなたの御前にいます。2 私の祈りがあなたの御前に届きますように。どうか、あなたの耳を私の叫びに傾けてください。3 私のたましいは、悩みに満ち、私のいのちは、よみに触れていますから。4 私は穴に下る者とともに数えられ、力のない者のようになっています。5 死人の中でも見放され、墓の中に横たわる殺された者のようになっています。

あなたは彼らをもはや覚えてはおられません。彼らはあなたの御手から断ち切られています。6 あなたは私を最も深い穴に置いておられます。そこは暗い所、深い淵です。7 あなたの激しい憤りが私の上にとどまり、あなたのすべての波であなたは私を悩ましておられます。セラ

8 あなたは私の親友を私から遠ざけ、私を彼らの忌みきらう者とされました。私は閉じ込められて、出て行くことができません。9 私の目は悩みによって衰えています。主よ。私は日ごとにあなたを呼び求めています。あなたに向かって私の両手を差し伸ばしています。10 あなたは死人のために奇しいわざを行なわれるのでしょうか。亡霊が起き上がって、あなたをほめたたえるのでしょうか。セラ



11 あなたの恵みが墓の中で宣べられましょうか、あなたの真実が滅びの中で。12 あなたの奇しいわざが、やみの中で知られるのでしょうか、あなたの義が忘却の地で。13 しかし、主よ。この私は、あなたに叫んでいます。朝明けに、私の祈りはあなたのところに届きます。14 主よ。なぜ、私のたましいを拒み、私に御顔を隠されるのですか。15 私は若いころから悩み、そして死にひんしています。私はあなたの恐ろしさに耐えてきて、心が乱れています。16 あなたの燃える怒りが私の上を越え、あなたからの恐怖が私を滅ぼし尽くしました。17 これらが日夜、大水のように私を囲み、私を全く取り巻いてしまいました。18 あなたは私から愛する者や友を遠ざけてしまわれました。私の知人たちは暗い所にいます。

愛する友に裏切られ、神の栄光から切り離されて、罪人となって私たちの罪を負われるキリストの嘆きが痛みとともに胸にこだましました。皆でしばらく沈黙の祈りを捧げました。

「主よ、深い淵からあなたを呼び求めます。」（詩篇 130 編 1 節）

詩篇はイエスの祈り、と言われた神学者がいます。その意味が理解できたような気がしました。

コーヘンご夫妻訪問

エルサレム滞在中、80代の生粋のユダヤ人、コーヘンご夫妻宅を訪問しました。ホロコースト生存者のケアをしているドイツの親しい友人が、ハンブルクのユダヤ人のために祈っている日本人が、3月にグループでエルサレムを訪問する、とコーヘン氏に伝えたところ、是非我が家へお越しください、と招待してくださいましたからです。



ご存じの方も多いと思いますが、コーヘンという名は祭司という意味です。例にもれず、コーヘン氏も祭司の家系の出で、ご夫妻は熱心なユダヤ教徒です。たまたま、ツアー参加者の中に、イスラエルに帰還した人々や貧しいユダヤ人たちを助ける働きをしている団体、BFP（ブリジス・フォー・ピース）の関係者がおり、コーヘンさんは、BFPの代表をよく知っていらっしゃるということで、私たちはすっかり意気投合し、実に幸いなひとときを過ごさせていただきました。

お菓子と飲み物をいただきながら、私たちは、コーヘンご夫妻にいろいろな質問をさせていただきました。特に心に残ったのが、「選民であるとは、コーヘンさんにとって、どういう意味ですか」という質問に対し、「私たちが選ばれたのは、与えるためです」というお答えでした。「すべての民に仕え、祝福を与えるためです。」とつないだコーヘンさんのことばに、その日読んだ、アブラハム契約の箇所が重なりました。

その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」（創世記 12:1~3）

主がコーヘンご夫妻に御霊を注いでくださって、一日も早くイエシュア（イエスのヘブライ語名）こそメシアであることを知り、真の祝福を人々に与える人となりますように！

ガリラヤ湖上にて



私は 2000 年秋、初めて聖地旅行に参加しました。長年務めてきたドイツ開拓教会の伝道師をやめ、日本で「工藤篤子音楽ミニストリーズ」(AKMM)を建て上げようとしていた時でした。不思議な主の導きを確認しながらも、たくさんの不安がありました。私にとっては、日本で具体的にどのように賛美奉仕を進めてゆけばよいのか、どなたが協力してくださるのか、そして経済的な不安・・・。

その旅行の初日、美しいガリラヤ湖上でヘブライ語の「Baruch Haba」（バル・ハバ＝主の御名によって来られる方に）を賛美しました。「主よ、あなたのみ力の舟に乗り、お休みください。そうすれば私たちはあなたの義の衣を着て喜び賛美するでしょう。」の箇所を歌ったとき、突然大きな思いが私の心を満たしました。ああ、そうなのだ、私がいつも主を心にお迎えするなら、主は私を喜びと賛美で満たしてくださる。主が私を罪から救い、主のみ力の舟に乗せ、義としてくださった。主が私の人生の舵を取ってくださるのだ。嵐の時には、みことばをもって制し、私を守ってくださる全能の主が共におられるなら、何も恐れることはないのだ、と。

それからはいつも主が共におられるのを実感しました。旅行中、ツアーリーダーの黒田禎一郎師は、毎日みことばから、神がどのようにご自身のマスタープランを成就してくださるかを語ってくださいました。

イスラエルは神のマスタープランの縮図。神が選ばれた都、エルサレムに入ってから、さらなる神のご臨在を感じました。歴史を支配しておられる主。私の天のお父様がこんなにすごいお方なのであれば、どうして私のちっぽけな奉仕ぐらい導いてくださらないことがあろうかと思いました。



同時に、スペイン、ドイツで出会ったユダヤ人の友人への救いの祈り、約束の民とイスラエルのための祈りが私のうちに湧き上がるようになりました。

その年の11月に「ミッション・宣教の声」が窓口になってくださり、「工藤音楽ミニストリーズ」を設立、聖地旅行に同行した数名の方が世話人になってくださいました。

このように、私はガリラヤ湖上で賛美伝道への召命の確信が与えられ、AKMMはあの聖地旅行からスタートしたのでした。

あれから9年たった、2009年3月4日、あのときのガリラヤ湖上にて、溢れる感謝とともに、再び Baruch Haba を賛美させていただきました。



エベン・エゼル（主がここまで導いてくださいました）。そして主はこれからも私を導いてくださることを信じ、日々尊い小羊の血潮で清めていただきながら、主のわざに励んでまいりたいと思っています。



（エルサレム、園の墓にて記念撮影）

♥お祈りください

日本行きまであと2週間となりました。どうぞ、一日も早く風邪が完治しますよう、お祈りください。

フル回転でコンサートの準備をしていますが、どのようなときにも主を覚えつつ、すべてを祈りとともに行うことができますよう、お祈りお支えください。

春の日本、中国でのコンサートのために、どうぞお祈りください。ひとつひとつのコンサートにて、砕かれた霊とまことをもって主を賛美する者でありたいと願っています。そして、主がご自身の栄光を表してください、ひとりでも多くの方が、イエス・キリストの救いに入れられますように！

(予定)

3月下旬 日本到着

4月 5日(日) 大阪中央バプテスト教会 賛美コンサート連絡先：教会 06-6484-3929

4月11日(土) 大阪、チャペル・こひつじ

「COME TO ME 工藤篤子イースターコンサート」午後2時

連絡先：教会 072-255-7707

4月12日(日) 大阪、北浜インターナショナル・バイブル・チャーチ

イースター賛美特別礼拝 10:30 連絡先：教会 06-6226-1334

4月19日(日) 中国、杭州、OMF 公認教会 崇一堂 賛美コンサート

4月26日(日) 堺栄光教会 讚美コンサート 15:00

連絡先：教会 072-363-4690

連休中、レコーディング

5月10日(日) 水口キリスト福音教会主催、母の日コンサート、甲賀市立碧水ホール

14:00 開演 連絡先：教会 0748-62-5933

5月19日(火) 札幌支援者の集い主催 ミャンマー復興支援のためのチャリティー・コンサート

会場：札幌希望の丘教会

連絡先：札幌聖書キリスト教会、井口敏明牧師 011-874-6697

5月下旬、帰独

それでは、次回は、日本到着後にメルマガをお送りさせていただきます。

どうぞ、主のご愛に溢れる受難節を過ごされますように！

工藤篤子